

全国学力・学習状況調査(その1 国語)

4月22日(水)23日(木)30日(木)の3日間で、3年生を対象に全国学力・学習状況調査が実施されました。例年、国語、数学、生徒質問紙ですが、今年度は英語を実施する年度であり、「聞くこと・読むこと」と「話すこと」を実施するため3日間の設定になりました。

各教科の問題をピックアップして、問題傾向から、生徒に身に付けさせるべき資質・能力について考えてみます。具体的な問題や解答等は国立教育政策研究所のホームページで検索できます。興味のある方は是非ご覧ください。

URL <https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>

国語の問題から

国語は大問が4問出題されています。今回私が注目したことが2つあります。大問¹では「ら抜き言葉」が、大問⁴では「擬音語・擬態語」が取り上げられています。この2つのテーマについて考えてみたいと思います。

ら抜き言葉とは

例えば、正しい形は「食べられる(=食べることができる)」ですが、ら抜き言葉になると「食べれる」になります。ら抜き言葉とは、本来「～られる」と言うべき可能表現から「ら」を抜いた言い方のことです。ら抜き言葉は会話では広く使われていますが、正式な文章や試験では「ら」を入れる形が正しいとされています。

文部科学省の解説書での出題の意図としては、「日常の言語活動の中にある言葉を取り上げて言葉の特徴やきまりについて考える」です。ら抜き言葉は、日常会話では広く使われていますが、公的な文章や正式な場面では「食べられる」が適切とされています。会話ではOKだが、文章では適切でない場合がある、場面によって言葉を使い分ける力を見ようとしていると考えられます。具体的な問題を見てみましょう。みなさんできるでしょうか。

- 1 竹内さんは「可能の意味」(できる)について考えています。次の4つの文の下線部が「可能の意味」を含んでいるものを一つ選びなさい。
 - (1) 運動会当日の天気が案じられる。
 - (2) 突然、友人から声を掛けられる。
 - (3) 満腹になったが、ケーキは食べられる。
 - (4) 来賓の方が、卒業式の会場に入られる。
- 2 竹内さんは、他にどのような「ら抜き言葉」があるのかを考えてみました。次の4つの文の下線部が「ら抜き言葉」であるものを選びなさい。
 - (1) 強い風で傘が折れる。
 - (2) 朝が早くても起きれる。
 - (3) この商品はよく売れる。
 - (4) 赤ちゃんが生まれる。

この問題は、日常に何気なく使っている「ら抜き言葉(例:食べれる)」が公的な文章や正式な場面では「食べられる」として使うことができるか、2の問題にあるように、「折れる」や「生まれる」は自動詞であること。「売れる」はその意味がすでに「可能の意味」を表わしていることが分かるかどうかです。

※自動詞：目的語をとらず、主語だけで意味が成り立つ動詞

例 ドアが開く、子どもが起きる、水が流れる

他動詞：対象（～を）が必要な動詞

嶺 ドアを開ける、子どもを起こす、水を流す



日常の会話や、授業の中で、それぞれの動詞がどんな意味かを考えながら、イメージしながら使ったり、取り組んだりしているか大切です。【解答 1、(3) 2、(4)】

擬音語・擬態語とは

擬音語とは「実際に聞こえる音をまねた言葉」、擬態語とは「音ではなく、様子や状態を表す言葉」と説明できます。問題文の中では、次のような説明があります。「擬音語・擬態語の中にも、様々な話しぶりや、やりとりの雰囲気などについて使われて、それを聞くだけですぐに様子をほうふつとさせるものが数多くある。(中略)一般的に擬音語・擬態語は、いろいろな音や様子を表現して、受けとる人に直感的にあるイメージを想起させる効果を持っている。ことばのやりとりの表情を表わす擬音語・擬態語も、声や口調、態度など数々の情報を総合して得られるイメージを、短いことばで端的に示してくれる。」

文部科学省はこの問題の出題の意図を「説明的な文章を読んで理解したことをノートにまとめる」としています。理解するためには、擬音語・擬態語がどのような効果を持つのかのイメージがなければまとめられません。

具体的な問題を見てみましょう。



〈具体的な場面〉

【問題】林さんは、本文を読んで理解したことをより深めるために〈具体的な場面〉を思い浮かべながら、2種類の例文を書いてみました。あなたは、〈例文1〉と〈例文2〉を比べて、擬態語にはどのような効果があると考えますか。あとの条件1と条件2にしたがって書きなさい。

〈例文1〉「いいえたくさん練習してきたから大丈夫です。」
生徒は言った。

〈例文2〉「いいえたくさん練習してきたから大丈夫です。」
生徒はきっぱりと言った。

条件1 〈例文2〉の擬態語「きっぱり」がどのような様子を表わしているかを具体的に書くこと。

条件2 条件1で書いたことを踏まえて、擬態語の効果について、本文中の言葉を使って書くこと。※本文はホームページを参照してください。

この問題も日常の言語活動がどうであるかを問われていると言えます。擬音語や擬態語だけの会話はどうかと思いますが、これらの言葉を適切に使いながら、会話のイメージが思い浮かぶようなやりとりが普段からできているかを見られているように思います。

学校では国語の授業だけでなく、全ての教育活動で言語環境を整えていきます。それに、家庭でのイメージ豊かな会話や場面に応じた話し方、読書などを実践していけば、確実に国語力が上がるはずですが、是非ご家庭でも日常のやりとりを見直してみませんか。皆さんが言葉に込めた思いを子どもがどうつかんでいるか、確実に伝わっているかを少し意識するだけで十分だと思います。その意識が生徒の学力を高めるようになると思うのです。

